

台風5号の接近に伴う被害防止対策について

気象災害対策H29-3
平成29年8月4日
農林総合研究センター

I 被害防止対策

詳しい台風情報、解説は最終ページ

現在、非常に強い台風第5号は、奄美大島の東約190キロをゆっくりとした速さで西北西へ進んでいます。

今後、石川県には8日（火）～9日（水）にかけて最接近する進路予想となっています。

今後の台風情報に十分注意し、万全の対策を講じて下さい。

〈要旨〉

- 1 出穂期～登熟初中期の水稻は、強風やフェーンの影響を受けやすい時期となるので、台風が接近する前にはほ場へ入水し、白穂の発生や稲体の消耗を防止する。
- 2 大豆は、大雨に備えて、ほ場の排水路を点検・連結し、排水対策を講ずる。
- 3 野菜や花き等の園芸施設では、施設内に風が吹き込まないように、サイドのフィルムを張り、破損箇所は速やかに補修し、ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直すなど点検・整備する。
- 4 収穫期に入っている園芸作物では、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。
- 5 棚栽培の果樹では、風圧による棚の上下動によって落果が起きるので、支柱・アンカー等で棚面を固定する。

〈詳細〉

II 農作物の被害防止対策

1 水 稲

現在、早生は登熟中期、コシヒカリは登熟初期となっている。また、晩植や直播のコシヒカリ、晩生品種は出穂期となっている。

(1) 事前対策

出穂期から登熟初中期の水稻は、強風やフェーンの影響を受けやすい時期となるので、台風が接近する前にはほ場へ入水し、白穂の発生や稲体の消耗を防止する。

特に、出穂直後～出穂10日後までは、最も影響を受けやすいので注意する。

(2) 事後対策

- ① 台風通過後は、湛水状態を避け、土壌の飽水状態を保つため、引き続き間断通水を継続する。
- ② 強風により倒伏した早生のほ場では、今後穂発芽が懸念されるので、湛水状態にならないよう排水対策を実施しておく。

2 大豆

現在、開花終期～幼莢期となっている。

(1) 事前対策

- ① 強風やフェーンが予想される場合は、作物体の消耗を軽減し、落花や落莢を防止するため、うね間かん水を実施する。
- ② 降雨が予想される場合は、排水溝を点検・整備し、連結させておく。

(2) 事後対策

- ① 降雨では場が長時間冠水した場合、根腐れを起こすので台風通過後は速やかな排水に努める。
- ② 降雨を伴った強風の場合は、莢腐敗の発生が懸念されるので、紫斑病防除と併せ防除を実施する。

3 野菜・花き

(1) 事前対策

① 施設野菜・花き（トマト、きゅうり、軟弱野菜、ストック、はぼたん等）

ア 施設内に風雨が吹き込まないように、サイドのフィルムを張り、破損箇所は速やかに補修したり、ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直すなど点検・整備を早急を実施する。

イ 魚網や防風ネットを妻面またはハウス全体に被覆する。

ウ 暴風時は施設を密閉し、換気扇を稼働させて、施設の内圧を下げて、フィルムがばたつかないようにする。

エ ハウス周囲の排水溝を整備し、施設内に浸水しないように備える。

オ 高温期の台風であり、日中接近した場合は施設の密閉により過度の気温上昇が起こるので、風下側は5～10 cm程度の幅で巻き上げ換気する。密閉する場合は、台風通過後ただちに換気を行う。

カ 施設内が高温になると、葉や生長点が焼ける恐れがあるため、頭上から噴霧散水して作物体温やハウス内の温度を下げる。

② 露地野菜・花き（ねぎ、きく等）

ア ほ場の排水溝を点検し、大雨時の冠水に備える。

イ なすや豆類などの棚仕立ての品目では、筋かいや直管で棚を相互に連結し、また周囲の杭等と棚を固定し、棚全体を固定・補強する。

ウ 砂丘地のだいこん、かんしょ等では、飛砂防止のために防風ネットの設置や寒冷紗のべたがけをする。あわせて、スプリンクラー散水を強風の前から台風が通過するまで行う。

エ ねぎはパイプ支柱を1.8 m間隔に立て、2本のハウスバンドで挟み込むように連結結束し、横ゆれを防止し、葉の損傷や倒伏を抑制する。

オ きくなど立体栽培の花きは、鋼管支柱を3～5 m毎に打ち込み、ネットを補強する。さらに、うねの中央に数m置きに支柱を立て、支柱を中心にネットを絞り込み、茎葉を固定する。

(2) 事後対策

- ① 豪雨によりほ場が冠水した場合は、3時間以内ではほとんど悪影響はないが、3時間を超えると高温によるむれや、根腐れによる被害が発生しやすく

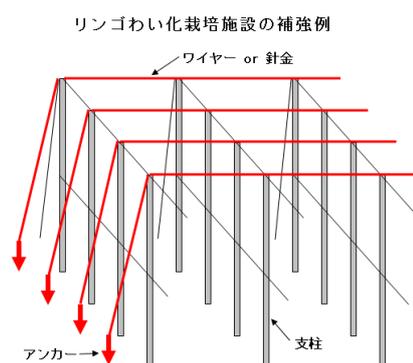
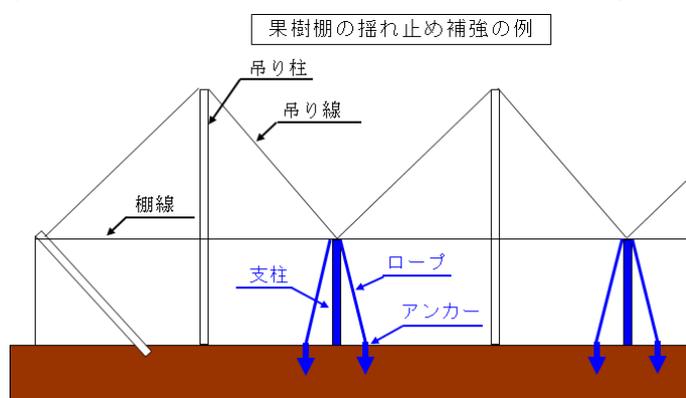
なるため、直ちに表面排水に努める。

- ② 砂丘畑等で強風や飛砂で茎葉が傷んだ場合は、通過後直ちに速効性肥料で追肥する。また、茎葉が風雨でもまれた場合は、病害が発生しやすいので、殺菌剤による防除を行う。
- ③ 花きでは風で茎が斜めになった場合は、台風通過後2～3時間以内にネットを起し元に戻す。特に露地ぎくでは起こすのが遅れると茎が曲がり、元に戻らなくなるので注意する。

4 果樹

(1) 事前対策

- ① 収穫期に入っているもも、なし、ぶどう等では、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。
- ② 防風施設は支柱を点検し、ネットの破れ等は補修し架線にしっかり固定する。
- ③ 棚栽培での果実の落果のほとんどが、風圧による棚の上下動が原因であるため、必要に応じて支柱・アンカー等で棚面を補強し、揺れを抑える。
- ④ なし、キウイフルーツ、いちじく等の新梢は折れやすいので、被害を軽減するため、新梢を棚面や支柱等に固定する。特に、いちじくでは、葉擦れが原因でサビ果が発生するので、新梢が揺れないようしっかりと固定する。
- ⑤ りんごの普通栽培やかきでは、枝の揺れによる落果を防止するため、枝の結束や支柱立てを行う。特に、果実の多い枝は、抵抗が大きく揺れやすいので注意して行う。
- ⑥ りんごのわい化栽培では、支柱の上部をワイヤー等で連結し補強する。
- ⑦ ぶどうの収穫が終了した園は、速やかにビニールをはずす。また、防鳥網、防風ネットは風で飛ばされないようしっかりと固定する。
- ⑧ 高接ぎ更新などの接ぎ木部分は風に弱いため、支柱を添えて必ず補強する。また、以前に裂けた枝、裂ける危険のある個所についても補強が必要である。
- ⑨ 大雨を伴う場合は、排水溝を設置するなど園内の排水対策を行う。
- ⑩ 事後対策のための資材等を予め準備しておく（薬剤、補修資材等）。



(2) 事後対策

- ① 台風で打ち身やすり傷を負った果実は、軟化、腐敗や落果が懸念される。収穫可能な果実は直ちに収穫し、食用、加工用、飼料用、廃棄するものに分

別し、処分する。また、落下果実は直ちに園外へ持ち出す。

- ② ビニールハウス、果樹棚、支柱等の施設の被害は早急に補修する。
- ③ 倒伏樹は速やかに起こし、支柱で固定する。太根の切断が著しい場合は、その程度に応じて地上部を切りつめる。
- ④ 枝裂けは状態に応じて傷害部を削り取り、塗布剤で処理する。
- ⑤ 落葉被害を受けた場合は、被害程度に応じて摘果を行い、果実品質維持と樹体の回復を図る。
- ⑥ 強風で葉や新梢が傷ついた場合、使用基準に基づき保護と防除を兼ねて速やかに殺菌剤を散布する。

5 畜産

(1) 事前対策

- ① 畜舎内に風が吹き込まないように、窓、戸等の破損箇所は速やかに補修する。
- ② 暴風時は風向きを考慮し畜舎の開口部を最小にして、換気扇を稼働させて換気を行う。
- ③ 停電によって搾乳作業やバルククーラーが止まることが予想されるので、緊急時の発電機の確保を検討しておく。

(2) 事後対策

- ① 畜舎の点検を行い被害箇所の修理を行う。
- ② 畜舎への浸水があった場合は、排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に、搾乳機器は故障箇所の点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。

6 飼料作物

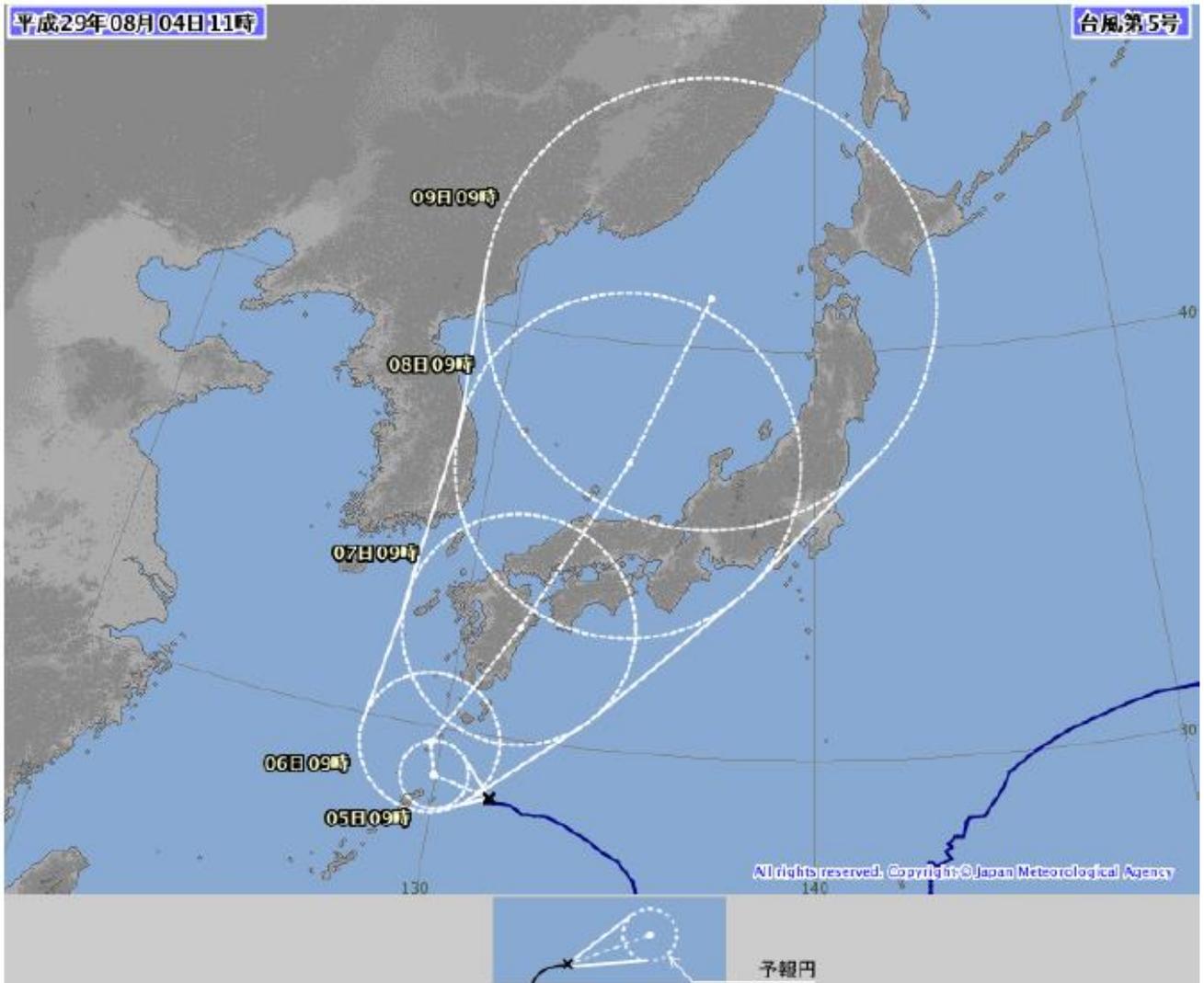
(1) 事前対策

- ① 飼料畑ほ場に排水溝を設けて表面排水を徹底する。
- ② ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールは、網をかけるなど強風による破損を防止する。

(2) 事後対策

- ① 倒伏したソルガムは、速やかに収穫し品質の低下を防ぐ。
- ② 飼料用とうもろこしは、倒伏の傾きが45度以下なら生育に支障がないので、収穫せずに登熟を進める。地際まで倒伏した場合は、熟度が進んだものほど回復が小さいので、折損により回復が見込めないものを優先して、熟度に応じて収穫時期を決定する。
- ③ ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールに破損箇所があれば、再度ラッピングするなり、テープを貼るなどサイロの気密性確保に努める。

Ⅲ 気象の概況 台風の進路予想



＜4日11時の実況＞	
大きさ	-
強さ	強い
存在地域	奄美大島の東約190km
中心位置	北緯 28度35分(28.6度) 東経 131度25分(131.4度)
進行方向、速さ	西北西 ゆっくり
中心気圧	950hPa
中心付近の最大風速	40m/s(80kt)
最大瞬間風速	60m/s(115kt)
25m/s以上の暴風域	全域 130km(70NM)
15m/s以上の強風域	全域 330km(180NM)

